

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

時代玩具コレクションデータベースの概要について
＜基幹研究：
時代玩具コレクションの公開プロジェクト＞

| | |
|-------|--|
| メタデータ | 言語: ja 出版者: National Museum of Ethnology 公開日: 2021-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 日高, 真吾 メールアドレス: 所属: |
| URL | https://doi.org/10.15021/00009848 |

時代玩具コレクションデータベースの概要について

文・写真 日高 真吾

はじめに

時代玩具コレクションとは、大阪府指定有形民俗文化財「玩具及び関連世相資料」の通称である。1993年に大阪府が収集家より購入し、2009年1月16日に大阪府の指定有形民俗文化財に登録され、2013年3月に国立民族学博物館（以下、民博）に寄贈された。

時代玩具コレクションは、1975（昭和50）年頃から、収集家である多田^{としかつ}敏捷が北海道から鹿児島県種子島まで古物市場や旧家を訪ねて集めた玩具を中心とするコレクションであり、江戸時代から明治・大正・昭和・平成の時代にわたる約1,500件、約60,000点に及ぶ全国屈指の点数をほこる。以下、簡単に時代玩具コレクションの文化財的価値について紹介したい。

時代玩具コレクションには、玩具と時代背景を考証するための、新聞、号外、雑誌、書籍、古文書などの文献史料が充実していることが特徴として挙げられる。玩具のコレクションは、国内にいくつか所在するが、玩具が作られた時代背景を知ることができる文献史料まで含むものは多くない。したがって、文献資料の充実がこのコレクションの文化財的価値を高めている。また、有形民俗文化財として考えた場合においても、日本の娯楽、遊戯に用いられた玩具として歴史的変遷・時代的特色などをよくあらわしている。とくに、明治・大正・昭和の玩具が充実しており、我が国の近代・近現代の歴史資料としても価値が高い。加えて、各分野の玩具を時代順・種類毎に網羅的、計画的に収集されており、すでにコレクションのうち、約3,000点については系統的に整理され、1992年に『おもちゃ博物館』全24巻（多田編 1992）として刊行されている。このように、学術的な観点から研究がおこなわれたコレクションであるということも、時代玩具コレクションの文化財的価値を高める要素となっている。

ビッグバンでの整理からみえる時代玩具コレクションの特徴と民博での整理作業

時代玩具コレクションが民博に寄贈される際、合わせて引き継いだものに、前の所蔵先である大阪府立大型児童館ビッグバンで整理されてきた台帳リストと写真アルバム台帳があった。これらの台帳類は、前述した全24巻からなる『おもちゃ博物館』で示された分類をもとに整理され、作成されて

いた。この分類整理作業には、多田自身も参加しており、収集者の意図を反映した分類となっている。しかし、約60,000点と膨大な数の時代玩具コレクションの整理を民博において進めるなか、引き継いだ台帳リストと写真台帳は、必ずしも符合していないことが明らかとなった。また、番号の付け間違い、未撮影の資料の存在、名称の不統一、整理途中の資料の存在も確認された。さらに西暦と和暦が混在し、年代表記の揺れがみられることもあった。そこで、これらの課題について修正を加えながら、約200日をかけて整理作業をおこなった。そして、データベースとしての公開を目指し、寄贈された写真台帳の写真を一枚ずつスキャンし、写真台帳の電子データ化をおこなった。

なお、今回の整理作業では、収集者である多田によって刊行された『おもちゃ博物館』の分類を基本的に踏襲することとした。これは、収集者が意図をもって分類をおこなっていることから、コレクションの性格を崩さないようにすることが肝要であると考えたためである。また、年代の分類作業では、時代区分として、江戸・明治・大正・昭和・平成の元号区分をおこなうこと、基本的に和暦で整理し、西暦については、補足情報として取り扱うことを基本方針とした。

時代玩具コレクションデータベースの制作

2019年度から2020年度にかけ、時代玩具コレクションの全体像がみられる時代玩具コレクションデータベースの作成をおこなった。本データベースは、時代玩具コレクションをいろいろな視点から検索できるフリーワード検索はもちろん、いくつかの分類基準からも検索できる仕組みを整えた。ひとつは、江戸・明治・大正・昭和・平成の5つの時代区分から検索できる仕組みである。また、多田の分類をもとに、1. 玩具の形態、2. 主な使用者、3. 遊び方、4. 主に遊ばれる季節、5. 生産地、6. 製造年代、7. 主要素材、8. サイズ、9. 参考文献、10. 備考の項目で閲覧できる仕組みを構築した。

「1. 玩具の形態」では26種類の形態項目（人形玩具、戦争玩具、乗物玩具、動力玩具、マスコミ玩具、紙製玩具、めんこ、カルタ、双六、着せ替え、ぬり絵、ビー玉・おはじき玩具、光学玩具、水遊び玩具、お面の玩具、ボード（盤上）玩具、ものづくり玩具、ごっこ玩具、スポーツ玩具、お土産玩具、教育玩具、駄菓子屋玩具、楽器玩具、玩具関連資料 I

日高 真吾（ひだか しんご）

国立民族学博物館人類基礎理論研究部教授。専門は保存科学。民俗文化財の保存修復方法、地域文化の保存と活用に関する研究をおこなう。著書に『災害と文化財—ある文化財科学者の視点から』（千里文化財団 2015年）、編著書に是澤博昭・日高真吾編『子どもたちの文化史—玩具にみる日本の近代』（臨川書店 2019年）などがある。



時代玩具コレクションデータベースのトップ画面

（子ども服・装身具）、玩具関連資料Ⅱ（文献・写真等）、その他）を設定した。また、「2. 主な使用者」では3種類の使用者（男子、女子、男女共用）、「3. 遊び方」では、5種類の遊び方（対戦、ごっこ遊び、鑑賞、一人遊び、ものづくり遊び）を設定した。その他、「4. 主に遊ばれる季節」では5種類の季節（正月、ひな祭り、端午の節句、クリスマス、通年）、「6. 製造年代」では4種類の年代（明治、大正、昭和、平成）、「7. 主要素材」では9種類の素材（植物由来、皮革由来、金属由来、土由来、貝由来、石由来、ガラス由来、人工素材由来、布由来）の項目を設定した。

なお、ここでの分類などは、すでに公開されているフォーラム型情報ミュージアム「日本の文化展示関連情報データベース」を参考にして、1点1項目ではなく、複数の項目の選択も可とする重複分類を基本とした（日高 2018: 67-83）。また、著作権との関連から、とくにテレビアニメや漫画のキャラクターをモデルにした玩具について、2021年に館内で定めた「インターネットによる学術情報公開のためのガイドライン」に基づき、サムネイル画像は、1,500×1,200ピクセルの場合、180万画素以下となる大きさとして掲載することとした。

まとめ

現在、時代玩具コレクションデータベースは、2021年7月の一般公開を予定している。公開されれば、時代玩具コレクションが民博に寄贈された目的であった「より積極的な活用」に向けて着実にその環境を整えることができると考えている。ただし、データベース公開後も、重複分類の項目設定や分類の在り方については、さらなる検討が必要となる。また、商標登録がなされている玩具の紹介の方法なども情報収集をおこない、検討を進めていきたい。

「子ども」の存在は、豊かな社会、平和な社会を築いていく上でいうまでもなく欠かせない。時代玩具コレクションは、そうした子どもたちの役割を表現し、知ることができるコレクションである（是澤・日高編 2019）。本データベース公開後、さまざまな形で時代玩具コレクションが活用される機会が増えることを願うとともに、貴重なコレクションとして民博で大切に所蔵していきたいと考えている。

引用文献

- 是澤博昭・日高真吾編 2019『子どもたちの文化史—玩具にみる日本の近代』京都：臨川書店。
- 多田敏捷編 1992『おもちゃ博物館』全24巻、京都：京都書院。
- 日高真吾 2018「国立民族学博物館『日本の文化展示場』の展示資料をデータベース化する試み」『民具研究』157: 67-83。